

## 東京の水産業振興に向けた専門懇談会（第3回）議事録

日時：令和5年2月13日（月曜日） 13時30分～15時30分

場所：第一本庁舎21階 海区漁業調整委員会室

小口課長代理	<p>〈開会〉</p> <p>定刻となりましたので、只今から、東京の水産業振興に向けた専門懇談会第3回を開催いたします。</p> <p>事務局の小口です。議事に入りますまでの間、進行を務めさせていただきます。</p> <p>本日の委員のみなさまの出席状況でございますが、委員の皆様5名、全員のご参加をいただいております。</p> <p>なお、本日の懇談会は、インターネットの同時中継を行います。また、議事録は公開されますので、ご了承ください。</p> <p>資料でございますが、本日もお手元のモニターに移して進めてまいります。</p> <p>また、事務局側の出席ですが、本日は島しょ農林水産総合センターの中野所長が所要のため欠席ですので、代理で小野振興企画室長に出席いただいております。</p> <p>それでは、議事に入ります。</p> <p>ここからの進行につきましては、関座長、どうぞよろしく願いいたします。</p>
座長 (関委員)	<p>座長の関ですよろしく申し上げます。もう三回目になりましたけれども、いつものように、円滑かつ活発な会議になりますように、皆様のご協力をお願いしたいと思います。</p> <p>それではこれより、議事に入っていきたいと思っております。「懇談会でのご意見を踏まえた令和5年度の展開について」ということで、資料の説明を、藤井水産課長からお願いしたいと思います。</p> <p>よろしく申し上げます。</p>
藤井水産課長	<p>水産課長の藤井でございます。よろしく申し上げます。</p> <p>資料はモニターに表示をしております。こちらに基づきまして説明を申し上げます。</p> <p>これまで、皆様方からご意見をいただきましたDX、環境保全、人材育成、ブランド化の4つの分野につきまして、皆様からのご意見を踏まえまし</p>

て、令和5年度に実施する施策を取りまとめましたので、ご報告をいたします。

また、今後の予定ですが、今回ご説明する内容に加えまして、これまでの会議の中でご説明してまいりました東京の水産業の現状や課題などと合わせまして、取りまとめをいたしまして、年度内にホームページでも公表する予定でございます。

それでは、資料に基づきましてご説明を進めさせていただきます。

まずDX分野でございますが、漁業・養殖業のDX推進といたしまして、4つの取組を主に進めて参ります。

まず、「荷捌き作業の省力化」についてでございます。こちら来年度島しょ地域2地区に、荷捌き作業あるいは事務の軽減を図るためのシステムを導入いたしまして、他の地域への本格導入に向けた効果検証を進めていくこととしております。

また次の項目の、「操業情報の収集体制構築」についてでございますけれども、こちら資源管理に不可欠な資源評価の精度を高めていくため、デジタル技術の活用を図りまして、島しょ地域の漁船から操業のデータを収集するシステムを構築してまいります。具体的には島しょ地域でキンメダイを主に漁獲する漁船等を対象に、デジタル操業日誌等を導入いたしまして、操業時の操業の基礎情報を収集してまいりたいと考えております。

続いて3点目の「内水面養殖業のスマート化」についてでございます。こちら都の施設でございます奥多摩さかな養殖センターにおきまして、AI搭載型自動給餌機、また飼育環境コントロールシステムの効果を検証いたしまして、都内の養殖事業者への技術移転を目指してまいることとしております。

つづきまして4点目の「海況予測システムの普及」についてでございます。こちら本年度からシステムの運用を開始してございますけれども、より漁業者の皆様に使っていただけるよう、あるいは使い勝手のいいように機能の改善を進めてまいりまして、システムの普及につなげてまいりたいという風に考えております。

続いて大項目の2項目点目になります。環境保全・資源管理分野でございます。こちら資源管理や栽培漁業の推進、気候変動への対応の取組を進めて参ることとしております。

まず資源管理の推進といたしましては、先ほどDX分野でもご説明をいたしましたデジタル操業日誌等の導入を、特にキンメダイを操業する漁船については概ねカバーする形で整備をいたしまして、操業時の基礎情報を収集することで、資源評価精度の向上を図りまして、適切な資源管理につなげていきたいと考えております。

また、資源管理強化の観点から、現在、自由漁業で行われておりますキンメダイの底魚一本釣り漁業につきまして、許可制の導入なども含めまして国に働きかけをしてみたいと考えております。

また資源管理に取り組む漁業者に対しまして、漁業共済掛金助成を行いまして、資源管理強化に伴います漁業経営への影響緩和に努めてまいりたいと考えております。

また来年度でございますけれども、東京都の水産試験研究にかかわる機関でございます東京都島しょ農林水産総合センター、こちらの定数3名を増加する予定としてございまして体制強化を図りまして、新たな資源管理や環境変動等への課題に対応してみたいと思います。

続いて栽培漁業の推進でございますけれども、現在大島にございます栽培漁業センター、こちら老朽化が進んでございまして、こちらの栽培漁業センターについて、今後は藻場の再生や新たな魚種に対応できる施設へリニューアルしていきますように、来年度は基本計画の策定を進めてまいります。

また、気候変動への対応といたしまして、現在島しょ地域では海水温の上昇等によりまして海藻が消失します磯焼けが進んでいることから、藻場の造成に向けまして、漁港施設の活用なども図りながら、海藻類の増殖手法の調査・検討なども進めてまいりたいと考えてございます。

続いて次ページでございます。

3点目の担い手の確保育成でございます。こちら本年度から運用を開始いたしました東京漁業就業支援センター、通称東京フィッシャーズナビと呼ばれておりますけれども、こちらが核となり、東京の漁業就業情報の発信強化や、地域と連携しました担い手の育成・定着の仕組みづくりを進めまして、就業希望者の募集から定着・中核的漁業者となるまでをトータルとして支援をしてみたいです。

また女性等の活動支援につきましては、女性部や青年部の交流活動等への支援や、加工品・特産品づくりなどへの支援を進めて参ることとしております。

こうした人材育成の取組の実施にあたっては、情報発信や様々な人材あるいは地域とのネットワークづくりなどにおきまして、東京ならではの取組としていきますよう、特に、長谷川委員、関委員に置かれましては、引き続き実施上のご協力を賜りますようお願いをしたいと思いますと考えております。

最後、4点目のブランド化分野でございます。

こちら魚価の向上対策といたしまして、国内におきましては、小売店やSNSなどを通じたイベント、また生産現場へのバイヤーツアーなどの開催を予定しておりまして、東京産水産物のPRを行うほか、海外販路の開拓に

	<p>向けまして、生産者団体が実施する海外での販路開拓の取組の支援、また、そのために必要な鮮度保持・品質管理技術の指導を行ってまいりたいと考えてございます。</p> <p>このほか、再び掲載となりますけれども、加工団体が実施します商品の企画開発、量産体制の整備、販路開拓等の取組に支援を行ってまいりたいと考えております。</p> <p>なお、こちらのブランド化の取組にあたりましては、オール東京のインフラあるいはソフトパワーを活かしたより良い魚づくり、こういったものを行えますよう、特に、江口委員におかれましては、引き続きご助言、ご協力をよろしくお願いしたいと思っております。</p> <p>以上簡単でございますけれども、特に来年度予算化あるいは事業化した主な事業につきまして、皆様のご意見をもとにまとめた施策の内容、取り組みの内容をご説明申し上げました。重ねてのお願いになりますけれども、今後の事業実施にあたりましては、今後皆様のご協力、お力添えを引き続き賜りますよう、お願い申し上げまして、説明といたします。</p>
座 長 (関委員)	<p>はい、藤井課長ありがとうございました。</p> <p>事務局からの資料の説明は以上ということなので、ご意見ご質問を、よろしくお願いいたします。</p> <p>加えてのご提案などでも結構ですので、どこからでも構いませんので、よろしくお願い致します。</p> <p>最初私の方からよろしいでしょうか。</p> <p>和5年度ということは、来月、再来月から、こういう施策で実際に動いていきますよということなのだと思うのですが、例えば人材育成で見ますと、すごく長期にわたって動かなければいけないこと、それから来年度すぐにはできること、もうちょっと中間的な長さで見なければいけないものと、いろいろなものがあると思います。そのあたりのタイムスケジュールというか、計画というのは、これから詰めていくと理解しておけばよろしいでしょうか。</p>
藤井水産課長	<p>はい、ご質問の件でございますが、個々の事業につきましては、これから詳細を詰めていくところもございしますが、先ほど冒頭にも申し上げました、今後年度内に資料の取りまとめをしていき、ある程度の中長期的な施策の進め方などについても言及をさせていただく予定でございます。</p> <p>おっしゃられますように、特に担い手育成につきましては、切れ目なく、計画的にやっていくことが必要だと思っておりますので、そういった点も踏まえながら、ある程度中長期的な視点も交えながら、都の計画というものを</p>

<p>座 長</p>	<p>年度内に取りまとめていきたいと考えております。</p> <p>はい、ありがとうございます。</p> <p>他、いかがでしょうか。</p> <p>委員さん順番に聞いていってもいいですか。よろしいですかそういうやり方で。</p> <p>じゃあ、まず山本委員から、お願いします。</p>
<p>山本委員</p>	<p>はい、山本でございます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>こちらに記載の内容については、私の方から第一回目の時に言及した内容をまとめていただいているという風に認識しておりますので、特にこれに対して、ちょっと違うのかなんとかってということではないかなと思っております。</p> <p>中期長期という話も、年度末のその取りまとめで実施されるということだったので、例えばデジタル操業日誌と、海況予測をくっつければ漁場予測にもなるわけで、そういうシステムの改良というか、より漁業者が容易に漁に出て、効率的に獲れるような仕組みというのは、すごく大事だと思っているので、そこを漁業者さんに寄り添いながら、進めていくということが中長期的に見たときに大切なのではないかなと思っております。</p> <p>また、自動給餌、AI 搭載型とおっしゃっておりますけれども、内水面養殖で、自動給餌の AI って本当に必要なのかというのが、私はよくわかっていなくて、養殖事業者によっては、餌をやるタイミングが一番魚の状態や活性を見るのに重要なタイミングで、確かにそれを自動化すれば効率は良くなるけれども、実際のところ自動給餌に頼ってやっている海面養殖や陸上養殖は、個体差のばらつきが大きくなるなどのデメリットも当然あるわけです。最近いろいろな企業で AI を活用した自動給餌というものをしていますが、実証してうまくいったという例をあまり聞かないので、ここについては慎重に、よく見極めたうえで、現場実装というものにご検討されたらいいのではないかなと思っております。</p> <p>ここに記載はないのですが、以前長谷様からもお話のあった、東京都でぜひ陸上養殖をやってみてはいかがでしょうかという、これが栽培漁業センターの機能強化とか、さきほどの内水面養殖のスマート化に関連することなのかもわからないのですが、洋上風力発電の候補地として手を挙げるといいうタイミングを見据えて、これからそういう検討をされるということもよいのではないかなと考えております。</p> <p>私の方からは以上です。</p>
<p>座 長</p>	<p>はい、ありがとうございました。</p>

長谷川委員	<p>では続いて、長谷川委員、お願いします。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>そうですね、基本的になんていうか、この太字の、三角の横の太字（資料中）が事業化されるということですね。皆さんからもお話が出たと思うのですが、先ほど関先生がおっしゃったように、計画、横のタイムライン、中長期的にいつこれをやるとどういいういことが起こるかというところで、最初の方にお聞きしたように、KPIも設置、設定していらっしゃると思いますので、それとこれがどう関係しているのかということ、これだけ見るとそこが時間とか数値目標インパクトみたいなものがないとわからないので、それがあとよりこの案の良さを説明できると思いました。</p> <p>人材育成に関して、皆さんからも出ましたけれども、やはり東京都ならではの、漁師はもちろんなのですけれども、日本の水産業とか東京都の水産業をよくするための漁師とか以外の、バイヤーさんの育成のお話も出ていたと思いますし、自分がお話しさせていただいたのは、学生がいかに東京都の水産に関われるかというところで、道を示してあげることも、すごく人が集まる東京都ならではの、いいかなと思っています。</p> <p>中長期の計画とどうこれがあっていくかというところにあると思うのですけれども、東京都水産のパーパスとかミッションビジョンとかそういうものを掲げて、そこに向かってこういうことをやっていきますというのがあると、より推進が迷ったときに、ぶれない旗みたいなものの確認ができるのかなと思っていましたので、その辺は迷われているみたいなお話も以前お聞きした気もするのですけれども、もしそういうのも何かのタイミングで、議論が進むといいのかなと思っています。</p> <p>以上です。</p>
座長	<p>ありがとうございます。</p> <p>では、続いて江口委員、お願いします。</p>
江口委員	<p>はい、江口でございます。</p> <p>ブランド化分野を中心にお話させていただきます。非常に色々な話をさせていただきまして、最後こういった形でまとめていただいてありがとうございます。ブランド化という意味では、毎回、いい魚を作る、売れる魚を作るという話をさせていただいてきたわけでございます。東京都には生産者のみならずいろいろと流通ブランディングに必要な人材、しかも素晴らしい各分野の専門家、プロフェッショナルな方々がそろっているのが東京の強みであるということをお話しさせていただきました。そういう中で、やはり基本は、生産者、事業者さんと各分野のプロフェッショナルな方々が、深いコミュニ</p>

ケーションをより多くいかに交流していくのかというのがポイントではないかと思っています。生産者さんは東京の流通の川下を見ていただくとか、そういったことが非常に大事ではないかということをお話しさせていただきました。今日ご報告いただいた中で、どちらかというところの流通ブランディング化というのは、最後川下という消費者の方々に対して正当な評価をいかにきちんと表現していくのかというところを担っているわけでございまして、そういう意味では、いろいろな取り組みをしていくツールの中で活かしていただけたらと思っています。

ちょっと話が脱線しますが、私今長崎から帰ってきたばかりでございまして、遠い遠隔地であっても、素晴らしい流通の方をお連れしたのですが、お連れしていろいろと現地の生産者さんの生産現場とか、いろいろな技術とかを、日頃どういう風になっているのかというのを深く見させていただきながら意見交換をして、実はそれはこういう風にやったらいいのですよとか、逆に実はこういう事情があって昔からこういうやり方をしているのですよというコミュニケーションがものすごく大事だと考えています。そのような中で関係ができれば、じゃあ今度言われた通りのやり方で締めてみるとか、水揚げの時処理してみるの送ってよとか、豊洲に送ってもらって、動画でコミュニケーションをとりながら、目の前で、これさこうなっているんですよとかですね、そういったことも、自主的に人と人がつながるとできていきます。やはりいろいろとツールや手法がありますが、一番大事なのは地元の生産事業者さんと流通業者さんをつないで、環境を築くような機会とか場面っていうのを、より多く有機的に作っていけば、必然的にやる気のある、やってみたいという方々が増えていく。そういった動機付けみたいなのも大事なことはないかと思います。

以上でございます。

座長

はい、ありがとうございます。

最後に長谷委員、お願いします。

長谷委員

私からはいくつか出させていただきましたが、キンメダイの資源については、今のところまだ厳しい状態に落ち込むということになっていない、今の段階でこそ、資源管理の体制をしっかりとっていったらいいとお話しさせていただいたと、その前段の話としての許可制と、ほかにとるものが少なくなってきた、みんながこのキンメダイ資源に圧力を、無秩序にかけることにならないようにやっていただくということで、いいなと思って見させていただいていますが、これに関連して、国にも働きかけると書いてありますけれど、支障のない範囲で今の反応とか、あと東京都だけでできる話ではないので、他県の今のところの反応とか、教えていただけたらというのが一つ目です

	<p>ね。</p> <p>それから、キンメ漁船キンメ漁業者を対象にデジタル操業日誌を導入するということであったと思いますが、許可制ではない段階で、自由漁業の段階でどれだけの範囲の人に導入を考えているのか、初年度で全隻、一応把握されている全部の漁業者に対しての導入を補助事業として行うのか、どのように進められるのかなということ。それが二点目。</p> <p>三点目は、共済掛金の助成の話があります。全国的にみるとものすごく漁業共済の普及が進んで、加入率90%とかになっていますが、東京都の実情、数字を把握していなかったものですから、実情だけを教えていただければなというのが三つ目です。</p> <p>それから栽培漁業センターの話で、山本委員からも陸上養殖の話出していたいただきましたけれども、来年度は基本計画の検討というお話でしたけれども、養殖種苗の生産もこの中で、どう取り組んでいくのかいかないのか、行くのであればどう考えておられるのか教えていただければなと思います。</p> <p>最後が、海藻類の増殖手法の調査検討ということで、タイムリーな話だし、しっかりやっていただいたらいいと思っていますけれども、増殖手法のところで読めるのかもしれないけれども、ブルーカーボン話がカーボンクレジットも含めて進んできております。そちらのことを考えると、従来通りのイメージじゃない、食用じゃない形の養殖みたいな、粗放的な養殖でカーボンクレジットと結びつけていくのだとすると、増殖手法で読めるのかもしれないけれども、粗放的な養殖手法の検討を、ぜひ視野に入れて取り組んでいったらいいのではないかなと思ったということです。</p> <p>以上です。</p>
座長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>一通り委員さんからご意見、ご質問も含まれていたと思いますので、それに対して今答えられることについて、東京都からお願いします。</p>
藤井課長	<p>最初に山本委員からご提言のありました陸上養殖の実施についてでございます。こちら前回の懇談会の中でもなかなか費用対効果の問題もありまして、すぐの実用化は難しいという課題はお示しさせていただいたかと思えます。今後年度内にまとめていく計画の中にはそういった課題も上げながら、陸上養殖、特に貝類などが主な対象になってくる可能性がありますけれども、こういったものは試験研究の中でもテーマとして設定をして費用対効果なども今後検証していくこととしております。そういったことの中でしっかり陸上養殖の可能性についても、我々の中でテーマとしてとらえて、検討を進めていきたいと考えているところでございます。</p> <p>それから、長谷委員からいくつかご質問をいただきました。まずキンメダ</p>



イの許可漁業化等に向けての国とか他県の反応ということでございますけれども、こちら特に他県につきましてはかなりまだ慎重なところがあるというのが実情かとおもいます。国の方も TAC 化に向けましては、漁業者の合意が得られたうえでというようなこともおっしゃっている中で、特に伊豆諸島周辺につきましては東京の海域が主になってきまして、他県の漁業者は入会操業をしている中で、正直許可漁業化については慎重な姿勢かなと思っております。こういった中で、許可漁業化を東京都だけでやるということは効果的には薄いと思いますので、他県も含めながら許可漁業化、あるいは承認漁業としていくには、まずは国の後押しが必要ということで、現在、国とも協議を進めておりまして、今後しっかりと資源管理をしていく一つの手法として許可漁業化ということについては、国には一定のご理解をいただいているのかなという認識でとらえております。

続いてこのデジタル操業日誌等の整備の規模感ですが、東京都のキンメダイを対象に一本釣りをやっている船、こちらにつきましては全隻初年度に対応していく予定としております。東京都でおおむね700隻余りの漁船が内湾も含めてございますけれども、特に島しょにつきましては、主業的にやっている船が300隻余りあると思います。当初全隻を対象にこのシステムを導入するというので、やっておりましたが、まずはキンメダイ等主要な魚種について、導入効果を踏まえたうえで、今後他魚種への展開というところが予算当局から宿題として出されておりますので、まずは東京都の主要魚種であるキンメダイ等につきまして初年度にある程度一定規模の整備を進めていきたいと考えております。キンメダイにつきましてはこちらでほぼ網羅できるような形がとれるかと思っております。

それから順序が前後しますが、これから栽培漁業センターのリニューアルをしていくということで、来年度計画を立てていく予定でございますけれども、昨年国が栽培漁業基本方針を立てまして、それに基づいて東京都も東京都の栽培漁業基本計画の策定を進めております。こちらの中で、種苗放流用だけではなくて養殖への提供、種苗提供といったようなところも、事務局案として現在盛り込むべく関係者のご理解を得るべく、準備を進めてきているところです。最終的には関係者の合意の下で、整備を進め、計画を作成していく予定でございますが、事務局案といたしましては養殖用種苗への供給も視野に現在計画づくりを進めているところでございます。

それから、ブルーカーボンについての視点から粗放的養殖へのご提言もございました。こちら来年度港湾施設でいろいろと技術開発を予定しているものが、まさにそういった粗放的養殖のようなスタイルのものでして、ロープに種苗を付けまして、それで海藻類を育てていこうと、ちゃんと育つかどうかということを見ていこうというものを現在検討しておりまして、こういったものがうまくいけば、ある意味粗放的な養殖などにもつながっていくので

はないかと考えております。この中で、色々と海藻の対象種などについても検討していきたいと考えているところでございます。

それから、漁業共済の掛け金助成についてもご質問ございました。こちら全国的には9割ほどの加入率があるとのことですが、今詳細なデータが手元にないので、詳しいことはお伝え出来ないのですが、東京都はかなり加入率が低くて、全国に比べまして低い加入状況というのがございます。こういったことから、今回の助成が一つの起爆剤になっていくのではないかと我々としては期待をしているところでございます。

はい、様々なご意見等もございましたが、特に人材育成の長谷川委員からのご提言については、まさにその通りでございます。我々も人材育成の目標設定などもこの計画の中ではなくて、東京都の水産業振興プランの中で、一応年間10名の新規就業者それから定着率を7割以上ということで、目標設定をしております、これに向けて取り組みを進めていくこととしております。こういった目標設定をしながら、今回いただいたご提言内容もしっかりと盛り込んでその数値を上回るべく取り組みを進めていきたいと事務局としては思っております。

江口委員からも様々ご提言をいただいております。事業を立てること自体は非常にある意味たやすい部分ではございますが、実際にこれを成果のある内容としていくという中では、ソフトの部分、おっしゃるように人と人との関係づくりであるとか、いかに情報を伝達していくかというようなことが非常に重要になってきまして、そこが成否のカギを握ることになるんじゃないかと思っております。事業化はスタートラインに立ったということで、これからがある意味皆さんのご提言を実現していく上での正念場だと思っておりますので、ぜひ、実施にあたりましては繰り返しにはございますけれども、ご助言ご指導を賜りたいと考えてございます。

座長

はい、ありがとうございました。

そのほかなんでも自由に、気が付いたことございましたら発言していただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

では、私から一つ申し上げます。こういう事業化をしていって、来年度から動いていくということになるわけですが、先ほど年度内にホームページでご紹介というようなお話もあったと思うのですが、これに関係する漁師さんであるとか、水産業関係者であるとか、それから消費者的な立場の人、それからこれから漁業に入っていきたいなと思っているいろいろな人が、かかわってくる事業になっていくのだなと思っております。そういういろんな人たちにこれらの事業の動きを、ぜひよく知ってもらえるということが必要かなと思えました。もちろんホームページでというのもそうですし、いろい

<p>藤井課長</p>	<p>るな手段があると思うので、事業の PR というのと、それを進めていく中で少しくこういう成果が出たとか、こういうことが起こったというのをその都度報告していただくと、この事業が生きて動いてちゃんと実践につながっているって判断ができるので、ぜひそういうことにも力を注いでいただきたいと思いますなと思いましたので発言させていただきました。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>情報発信につきましては、東京都も戦略的な広報といいまして、情報発信を強化しているところがございますけれども、なかなか役所の行う情報発信で難しいところもございます。ぜひこういうあたりは長谷川委員などが特に情報発信については、プロでございますので、ぜひご知見をお借りできればと考えております。</p> <p>よろしく願いいたします。</p>
<p>江口委員</p>	<p>ブランド化分野ということで色々と話をさせていただきましたけれど、人材育成分野について色々とお聞きできたらと思ってお話しさせていただきます。</p> <p>こちら書かれているのは主な対策取り組みということで、特に重点的に今後東京都として取り組んでいく、特にフォーカスしていくこととして担い手とか女性等活動とかフォーカスされて書かれていると思います。一方でこれを言い出すときりがないのですけれども、ブランド化は PR するにしても、流通でブランド化していくにしても、それぞれの持ち場でプロの人といかに連携したり、組んで行くのかというのは一つ大事なのですが、最低限こういうことは知っていてほしいなという知識だったり、今は普通にほかの漁港ではこういう取り組みしているというようなことを含めた情報とか、知識ですね、そういったものも実は必要で、そういう中でいかによく知ってもらうとか、中にはそんなに細かく詳しくする必要はないのですけれども、せめて場合によっては上のリーダーみたいな方にはそういうのをもうちょっと詳しく必要性も含めて学んでもらうというのは、すごく大事ななと日頃感じています。というのは、そういうのを知ったうえで、それぞれの持ち場の人が入ってくると、こういう理由でこの人はこういうこととして、一緒にやろうとしているんだなというのがわかりますし、皆さん一緒になってやろうというのが出てくると思うのです。そういう意味では私の分野のみならず、DX の分野についても、色々 DX 化していきましょう、IT 化していきましょうというときに正直、パソコンが苦手だったり、LINE しか使えなかったりします。資源管理も、藻場の話もそうでしょうし、それぞれ人をいかに作っていくのかというのが大事で、現場で、人材とか人を育てていくことも大事なのかな、されていくのかなと思っているのですが、ほかの分野の方々、人を</p>

	<p>育てるという部分ではどうですか？</p> <p>勝手にやってくれているとかではなくて、中の担当者なりせめて漁協のパソコンのわかる人たちがやっていかなければいけないじゃないですか、一方でプロの人が来てやってくれるっていうだけだと、定着しないのかなとか、日頃そういうのを悩みながらやっているのですけれど、皆さんその辺、どうされてらっしゃいますか。</p>
山本委員	<p>確かに私も漁協をいくつか回ってお話させていただきましたけども、漁協のトップというのはほとんどリテラシー上あまり高くないですし、その地元地元においてそういうポストにいらっしゃる方は、影響力はすごく大きいです。そういう現場は当然あるのですけれど、ただどういう現場に行っても、すごく意欲的な生産者さんはいらっしゃるんですね。そういう方たちと私たちはなるべく接触を取ろうっていう、その方たちは仲間の方々、意欲的な生産者さんもネットワークを組みたいっていう思いもあるので、そこに我々はいつもジョイントして、我々ができることであればご提言したりとか、アイデアを出したりとかいうことをしています。そこから組織として動くには、上を動かさなくてはいけないので、あとは漁業者さんにやってもらわなければいけないので、それは我々ができることではないと思っています、あくまでも生産者さんが意欲的に取り組んでいるものを客観的に第三者として応援して、結果が出れば一番いいのですけれど、結果が出たものに対して、組織として漁協としてこういう活動したいんだということをお伝えいただく。最初漁協に行ってもこういうのをやりましょうって言ったんですけども全く聞いてもらえなくて、第三者が何言っているんだというような話になっちゃうので、でも間違いなくいらっしゃるんですね、どの地域どの地域でもすごく意欲的な方が。年齢的には30代の方も50代の方も漁業現場では若い方なので、そういう方々たちと一緒にやらせていただいているのが現状ですね。ただそういう方々をいかに我々のような民がサポートしたりとかコミュニケーションとったりというような機会をつくるかということがすごく大事じゃないかなと思っています。</p>
江口委員	<p>最後は、漁協の方々なり生産者の方が自ら必要だと思ってやろうってやってもらわないと、主体性なくその場だけで終わってしまうということがあるので、やはりそういうことって大事なんですね。</p>
座長	<p>長谷川さんが実際に現場の人とやり取りしている中でそういうことを見てきていると思うのですけれど、どうですか。</p>
長谷川委員	<p>そうですね、もう本当に皆さんおっしゃる通りで、さきほど江口さんおっ</p>

	<p>しゃった通り、コミュニケーションの場というか機会の提供がすごく大事だと思っています。フィッシャーマンジャパンという団体でやらせていただいている石巻とか宮城県とか、最近三重県とかいろいろなところでやらせていただいているのですけれども、漁師になるときに、まず大事なのは漁師を受け入れ、若い子を受け入れようとしている側だと思っています。まずその地域で人を育てましようというときは、人を育てようって言う人のベースとなるまさに知識とか意識とかその辺を確認しているの、若手の育成という名目で我々は本当に全員に、親方になる地元の漁師さんとか漁協の職員さんとか行政の職員さんとかに、考えるきっかけを持ってもらうのはすごく大事だと思っています。ある意味全方位で全員にこうDXも資源管理もブルーカーボンとかブランドとか販路とかも意識してもらってというのは、必要だなと思っているので、誰かだけがやるとどうしても出る杭は打たれるとか、足引っ張られたりとなってしまうので、全員で底上げしていきましようという空気づくりが、すごく大事だと思っていて、自分も水産庁で勉強会をやらせていただいたり、農林中金さんとか系統での勉強会も講師をさせていただくことよくあるんですけど、誰が当然知っているべきだとかいうことなくフラットに全員がこう目指していくっていうのが理想だと思っています。機会をどう作るのかということなのかもしれないですね、そういう場をまさに東京都が作ってくれれば全員が行きやすいと思いますので、そういう役割っていうのはすごく大事なんじゃないかなと思っています。</p>
<p>座長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>本当にそうですね、私も漁村の女の人たちを対象にしてシンポジウムを何年もやってきたのですが、このコロナになってからそれをオンラインシンポジウムにしていったんですね。その時に参加者の層が変わってきてしまって、今までずっと来ていただいていたやや年配の方々のごっそり抜けられていて、その代わり若い方とかが入ってくるんです。でも、それではだめだと思えますよね。オンラインになじんでいない人たちが、会えるようになったら会いましようねって言う間に忘れてしまう。オンラインという時代だから、そんなことを考えながら、今、江口委員の話聞いておりました。</p>
<p>長谷川委員</p>	<p>我々、インターン事業をやらせていただいているんですけど、学生のお話はその年配の漁師さんも結構かわいがりついでに聞いてくれるみたいなことがあって、なので本当に若い海とか水産に興味を持ってきている若い子たちをどんどん漁村に投入するっていうのは一定の効果があるというように思っています。関先生は大学生と漁師とか水産関係者との交流みたいなので、大学の中ではどうですか？</p>

座 長	<p>そういうのに興味がある学生は一定数いるので、そういう子たちはいろいろなところ連れて一緒に調査に行ったりすることもありますし、私は静岡にいますので、その静岡のその地域の中で一緒に祭りをやるとか、漁業見学をやるとか、交流をしてもらおうようになるべくしています。そうすると漁師さんも、若い子が興味を持っていると、それを粹に感じていろいろ教えてくれるし、学生は学生でさらに興味を深めていく。そうやってこうお互いが交流できるような機会っていうのをできる限りいろいろな場面で作っていきたいなとは思っています。</p>
長谷川委員	<p>そうですね。たぶん漁村とか業界の縦割りをいかに開いていくかということが大事で、混ざり合っていくとなんか多様性がいろいろ生まれるのかなという気がしますね。汽水域みたいな淡水と海水が混ざっているところって、いろいろ多様じゃないですか、あの感じがこう海、水産でもできるといいですね。</p>
座 長	<p>そうですね。</p>
江口委員	<p>ちょっとずれちゃうかもしれないですけども、このお話をお聞きしていて、汽水域というか壁をぶち壊すみたいなことを聞いて思い出したのが、女性の活動支援ということで、女性にフォーカスされているというのは素晴らしいことと思いますし、そういう意味ではどちらかっていうと正直男性の方が漁業で目立つ場面がどうしても多いかなと思う中で、私の分野で申し上げると、例えば、最近海外に産地から出向いて様々と地元の水産物を売り込むと、だいたいそういう時って、男性とか漁師さんとか、男性の方ばかり行っています。思い切って逆に女性、生産者さんの奥様方だけでその地元のものを売り込んでみましょうということ一回行っていただいたんですね。そうしたら逆に旦那はこんなことをしていたのかという驚きとともに、実際こうPRとか食べるのって、奥さんがやっているケースが多くて、そちらの方が海外の方にはすごく新鮮でPRになったと、で帰ってきてまた行きたいわねと言って、女性部会だけすごく盛り上がって、旦那様のやっていることに対しても理解が生まれて、新しい目線で女性なりの売り方で地域が盛り上がったという、いい方向に進んだというケースがあります。そういう意味では、思いきり話が脱線しましたけれども、今までの固定観念を捨てて、もちろん奥様方だって売り込んでいいわけですし、そういう活動も女性等の活動という意味ではいろいろとできるのではないかなと思ってですね、壁をぶち壊すというテーマでちょっと話させていただきました。</p>

座 長	<p>そのとおりですよ。海に出る漁師さんは海に出て、もうほとんどの時間働いているから、それでまた陸に来て加工品作ってなんていつ寝るのという話になります。でも昔から漁業は、分業がすごく明確な産業だと思うんですね。だから誰かがとってきたのを誰かが加工したり販売に行くという、それが主には男性が獲ってきて、女性が売ったり加工したりするというのは昔からある形だと思います。だから今、加工や売りに行くとか付加価値をつけていくところにきちんと光を当てて、それが大事だよということを見せることが大事になっているのではないかと思います。どんどん光を当ててください女性に。</p> <p>他いかがでしょうか。</p> <p>はい、藤井課長。</p>
藤井課長	<p>事務局から若干の補足のご説明ですが、江口委員からいろいろ流通を含めて人材育成していくことが重要ではないかというご提言でした。こちらのパワーポイントの資料の方で、人材育成といたしまして、東京フィッシャーズナビの件書いておりますけれども、実はこの中で、様々な年齢層とかを対象に、担い手育成のための研修をやっていく予定にしております。これは若い方もそうですし、あるいは中堅、あるいはリーダーとなるような方の研修などもこの取り組みとして盛り込んでございます。こういった中にぜひ今回の専門委員の皆様ですね、ご講師としてご参加いただきまして、色々レベル感はあるかと思っておりますけれども、そういった場を活用しながらぜひこういった研修の講師として、来年度も引き続きご協力いただければこちらとしてもありがたいかなと思っておりますので、ぜひ皆様の先進的な知見を、わかりやすく現場の方に落とし込むような機会なども、ぜひ設けていければと思いますので、ぜひその点につきまして引き続きご協力よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>それから、長谷委員から共済の加入率についてご質問ありました。データの方が手元にまいりまして補足でございますけれども、ご報告させていただきます。やはり東京都は加入率が低いということで、東京都の場合主に 10t 以下の船が主体となりますが、10t 以下の漁船で 73%、10t 以上でも 63% ということで、やはり全国の 9 割台から比べて低いという状況がございます。</p> <p>以上補足含めご報告となります。</p>
座 長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>そうしましたらほかに、何かありましたら。</p>
長谷川委員	<p>この懇談会は、今日が最後でしたっけ。</p>

座 長	今日が最後ですよね。
藤井課長	一応今年度のこのメンバーのこのテーマでの懇談会は最後となります。来年度も引き続きこの専門懇談会自体は時々のテーマに応じて実施していく予定でございます。主要なテーマにつきましては継続という形も考えておりますし、また新たな視点も盛り込みながら、次年度の専門懇談会を開催したいと思っています。またテーマ等につきましては改めてご報告したうえで、引き続きご協力をいただく方も中にいらっしゃると思いますので、その際には改めてご協力をよろしくお願ひしたいと思います。
長谷川委員	そしたら事務局に、答えにくければ答えなくてもいいです。今年度この5人で委員をやらせていただいて、おそらくもともと考えてらっしゃることもあって進めていたもの、継続でというものも、資料にもあると思うんですけども、この5人の話によって何かいい感じになったこととか、もしあればフィードバックを、お願ひします。
藤井課長	<p>ありがとうございます。そういった意味では、すべて結構皆様のご意見が後押しになっているというのは正直なところでございます。まず順を追ってDX の分野から申し上げますと、やはり我々は DX 分野ってかなり水産分野では後進というようなところもございまして、今回新たに全く新規で導入いたしましたのが、操業情報の収集体制の構築、こちらはある程度我々もなんかそういうものって必要だよってというところもございましたけれども、やはり特に資源管理の観点からもぜひ必要だということで、長谷委員からなどもご提言いただいて、かなり予算要求などで頑張らせていただいた部分でございます。こちら我々の事業の中では新規事業でして、かなり画期的な事業になっていく、あるいは今後の取り組みや成果が期待されているところかと思っております。</p> <p>また、内水面の養殖業のスマート化こちらにつきましても、東京都の内水面養殖業は規模自体が零細でございますけれども、非常に高齢化が進んでおりまして、こういったところをいかに解決していくかというテーマと課題認識がございましたので、今回山本委員などの後押しもありまして、こういった部分も新規で盛り込まれた部分かと思っております。</p> <p>また漁海況予測システムにつきまして、これ従前からの取り組みではございましたけれども、やはりご提言の中でいかに使ってもらえるシステムにしていくということが重要だというお話がありまして、こういった部分はバージョンアップなども含めて今回事業として盛り込めた点が非常に良かったと考えております。</p> <p>続いて、環境保全分野です。こちらにつきましてはかなりの部分後押しを</p>



	<p>いただいております、特に再掲となりますが先ほどの漁業情報収集システム、それからキンメダイの許可制の導入、これ特に長谷委員からのご意見などが非常に我々にとってありがたかった、後押しになったと思っております。</p> <p>また漁業共済などにつきましても、経営と資源管理との両立をいかに成り立たせていくかという意味で、こちらも新規でかなり予算折衝としては踏み込んだ議論がされたところですが、今回新たに東京都として盛り込むことができたということでは非常に有意義だったかなと思っております。</p> <p>また、島しょセンターの人材確保ですね。こちらなかなか都も人材のスリム化が進めてこられている中で、3名の定数増につながったというのは非常にこれまでにないところかと思えます。いかに資源管理の重要性が高まってきているかというところに合わせまして、本懇談会からの後押しもありましたという点が非常に大きく働いてきているではなかろうかと思っております。</p> <p>また海藻類の増殖手法ですね、こちら特にブルーカーボンの視点、これは長谷委員から繰り返しその重要性についてご意見いただいておりますので、こちらにつきましても一つ事業が立ち上げられたという点という意味では、金額の多い少ないにかかわらず重要ではなかろうかと思っております。</p> <p>その他、人材育成につきましては、既存の事業の延長線的なところではございますが、いかに効果的な事業にしていくかという意味では、皆様から頂いたご提言の内容が非常に大きく反映されている部分があるかと思えます。こういった実施上の部分などについて、皆様のご意見が非常に参考になったというところかと思えます。</p> <p>ブランド化につきましても、事業自体は既存の事業の延長線というところもございますが、特に江口委員を中心といたしまして、ご提言いただいたオール東京の人材を育成とか人材とのネットワークですね、あるいはそういうところなどが事業を実施していくうえで非常に参考になりました。</p> <p>こういったところ主に、事業予算要求上の点と合わせて、事業実施上の工夫などについて本委員会の意見を参考とさせていただいたところが非常に多いとご報告させていただきます。</p>
長谷川委員	ありがとうございます。
関座長	はい、どうぞ。
山田部長	農林水産部長の山田でございます。今、令和5年度に反映させた事業についてということで水産課長からお話をさせていただきましたけれども、先ほども皆様が長期的にどうつながっていくのかと言われていたと思うのですけ

	<p>れども、ご意見いただいた中で、長期的なものって我々事業に反映していないことが実はあります。具体的には陸上養殖の話であるとか、あとはブルーカーボンのさらに進んでカーボンクレジットの話、あと山本委員から先ほど話があったと思いますけれども、このデジタル操業日誌と海況予測とを組み合わせると漁場の予測もできるのではないかとかなり長期的な取り組みだと思えるのですが、まだ私共で検討すべき課題があるなということで、具体的な事業化としてはないんですけれども、当然、上とは議論しております、将来的にこういったものを取り組んでいこうというそういった方向性は持ってたのかなという意味で、非常に有意義なご意見をいただいたと思っております。</p>
長谷川委員	<p>ありがとうございます。</p>
座 長	<p>ありがとうございました。 よろしいですかね。</p>
長谷川委員	<p>はい、よかったです。 なんかお役に立てたのかというのがちゃんと。</p>
座 長	<p>本当にそうですね。 そのほかいかがでしょうか。 最終回なので、大丈夫でしょうか。 よろしいですか。 はい、では活発な意見交換できたと思います。 意見も出尽くしたようですので、事務局さんの方では今回の意見を反映して最終的な取りまとめということになると思いますので、よろしく願いいたします。 委員の皆様におかれましては懇談会の進行にご協力いただきまして本当にありがとうございました。</p>
委員一同	<p>ありがとうございました。</p>
座 長	<p>では事務局にお返しします。</p>
小口課長代理	<p>閑座長どうもありがとうございました。先ほども出ておりましたが、今回の会議を持ちまして、今年度の水産専門懇談会終了となります。ここで、閉会にあたりまして、山田農林水産部長からお礼を申し上げたいと思います。</p>

山田部長	<p>江口委員、長谷委員につきましては、後ろからすみません、大変失礼いたします。改めまして御礼のご挨拶をさせていただきます。</p> <p>委員の皆様方に置かれましては、昨年の7月に準備会という形でお集まりいただきまして、今回の3回までで計4回ということで大変お忙しい中、ご参加いただきまして、本当にありがとうございます。</p> <p>もともとこの懇談会の趣旨というのが漁業、水産業を取り巻く状況ということで、円高による燃油の高騰であるとか、あるいは温暖化によって獲れるものが獲れなくなってきているとそういった状況、さらには国主導ではありませんけれども資源管理に取り組まなければいけない、そういった様々な状況がある中で、じゃあ具体的に来年度以降、我々どうしていこうかということ考えた場合にやはり専門家の皆様方からのご意見をうかがって、事業化していくべきだということで、そういう趣旨で懇談会を設置いたしまして皆様方にお集まりをいただきました。おかげさまで毎回貴重なご意見をいただきまして、先ほど事務局からご説明いたしましたけれども、5年度の事業化ということで、具体的に予算をつけてスタートすることができるという運びになりました本当にありがとうございます。</p> <p>今日また様々なご意見をいただきまして、やはり中長期的な視点を持つということと、あと江口委員からはじまりましてコミュニケーションですかね、我々が考えるべきですけれども、生産者と各分野の方をいかにつないでいくかというコミュニケーションが大事だよというようなご意見をいただきました。</p> <p>またDXに関しましてもなかなか漁業者の方というのがそういったものに長けてない方が多いので、そのあたりをどうしていくかというのはやはりコミュニケーションから始まるのかなという、非常に大事な部分ということで、我々これまでやってきたつもりではおりますけれども、今後もさらに強力で推し進めながら、すべての人にご理解いただけるような形で進めていければと思っております。</p> <p>こういった形で今年度、4回でご意見いただきまして、これが最後になりますけれども、引き続き5年度事業が始まりまして、皆様からご意見をいただきまして、進めていきたいと思しますので、今後ともご指導をいただきたいとお願いいたしまして、御礼のご挨拶といたします。</p> <p>本当にありがとうございました。</p>
委員一同	<p>ありがとうございました。</p>
小口課長代理	<p>山田部長ありがとうございました。</p> <p>それでは本日は、委員の皆様におかれましては大変お疲れさまでした。またこの1年、皆様には事務局の不手際等により、ご迷惑をおかけしたにも関</p>

委員一同	<p>わらず、多大なるご協力をいただきまして、本当にありがとうございました。</p> <p>これを持ちまして、東京の水産業振興に向けた専門懇談会第3回を閉会いたします。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>〈閉 会〉</p>
------	---